

女性運転者の運転意識に関する調査研究

北海道工業大学 正 員 加来 照俊
 北海道大学 八木 麻未子
 同上 正 員 萩原 亨
 同上 正 員 中辻 隆

1. はじめに

「周りにこられて嫌な運転者は？」の問いに対して、最も嫌われているのは「中年女性」であった。いったいこの理由は何であろうか？ 女性運転者と男性運転者の運転意識の違いをアンケート調査により調査した。その結果、女性は全年齢において運転に対して男性より否定的であり不安感が強いといえた。運転免許取得直後の男女間の運転に対する意識の差は小さく、その後の運転経験の違いが意識のギャップを助長する原因の一つであることがわかった。また、異性間の相互の評価から、男女の運転の特徴を明確にした。

2. 調査方法

2. 1 アンケート調査

調査は、北海道警察本部手稲運転免許試験場において、更新者を対象に3回実施した。有効回答は男性690件、女性365件、合計1055件であった。運転歴3年未満の運転者に対しては、アンケートを郵送し、回収した。調査対象者は札幌市に在住の10代から60代以上の全年代にわたる男女620名である。有効回答回収数は男性68件、女性77件、合計145件であった。アンケート項目は、性別、年齢（年代）、免許取得時の年齢、運転目的、運転頻度等の基本属性と以下の項目に分けられる。

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1) 運転に対する姿勢：得手不得手、好き嫌い | 3) 苦手(嫌な)：技術、状況、運転者、車両種類 |
| 2) 危険認知：頻度、対象 | 4) 異性の運転者に関して：運転技能、マナー |

3. 調査結果

3. 1 運転経験と運転意識

女性と男性の運転経験の違いについての結果を示す。免許取得時の年齢分布から、女性は男性に比べ、30,40代で免許を取得率が高かった。運転頻度を見ると、男性に比べると運転頻度は低かった。特に、「毎日3時間以上」とした女性運転者は非常に少なかった。「ごく希に」または「運転しない」は女性全体の約4分の1であった。特に、若い女性でこの率が高くなっていった。女性は年代が高くなるに従って「毎日運転する」とした率が高くなっていった。30,40代では男性の構成率とほぼ同じになり、50代以上では逆に女性の方が高くなっていった。運転歴別では3年未満の男女とも約50%が毎日乗るとしていた。3年以上では男性70%強、女性45%であった。女性の運転目的は「買い物」、「通勤・通学」が多かった。男性では「商用」と「通勤・通学」が多かった。年代別の差は見られなかった。運転頻度別では、「毎日運転する」とした男女の運転目的はほぼ同じであった。

運転に対する意識について調査した。「運転が好きか嫌い」の設問については、女性で「運転が好き」とした構成率は70%であった。男性の方が10%高かった。年代による違いはなかった。図1で運転頻度別に見た結果を示す。運転頻度が高い運転者ほど「運転が好き」とした割合が高くなった。同じ運転頻度を持った男女で比較したところ、ほぼ同じになった。運転歴別に見ると、運転歴3年以上の結果では、「嫌い」と答えた女性は10%、男性は5%弱であった。3年未満では、女性は5%、男性は

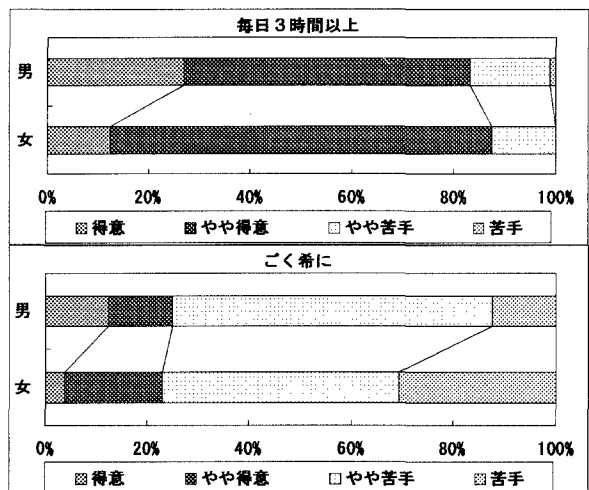


図1 運転頻度別 「運転は得意か？」

10%であった。「運転は得意か？」の設問に対し、女性で「運転が得意」とした割合と「不得意」とした割合はほぼ同じであった。男性では80%が「得意」と答えた。年代別に見ると、男性は年代による分布の違いはほとんど見られない。女性は年代があがる方が得意派が多くなった。運転歴別に見ると、女性は3年以上と未満では「得意」、「不得意」の割合が半々で変化無かったが、男性は3年未満では55%が「得意」としたのが、3年以上では80%強になった。運転頻度別で見ると、運転頻度が「毎日運転する」とした女性の場合、85%が「得意」と答えていた。

苦手意識の設問では、女性で「苦手なものがない」と答えたのは16%で、男性は61%であった。図2に運転歴別に見た結果を示す。運転歴別に見ると、男性は運転歴が増えるに従って、苦手が減っていく傾向であった。一方、女性は運転年数を重ねても男性初心者より多い構成率を示した。年代別に見ると、60代以上になると運転が苦手となる傾向にあった。運転頻度別に見ると、男女ともに運転頻度が増えるに従って、運転が「苦手」とする割合は減った。

3. 2異性間の運転評価

異性の運転者について質問した。図3に結果を示した。異性運転者の運転技術についてどう思うかの質問に対し、50%の男性が女性は「反応が遅い」と答えた。ついで、「自分勝手」、「余裕がない」、「安全確認が不十分」であった。40%の女性が男性は「自分勝手」と答え、ついで「スピードオーバー気味」、「運転が荒い」、「ウinkerが遅い、出ない」、「車線変更が多い」であった。異性の運転マナーについて聞いた。図4に結果を示す。男性は女性のマナーについて「自分勝手」と答えた人が一番多く、次いで「譲られてもお礼がない」であった。女性は「せっかち」が一番多く、次いで「意地悪」、「親切」という相反する意見が同じぐらい多かった。

4. まとめ

今回の調査では、女性は免許取得時の年齢が男性よりもやや高く、取得してもすぐに運転する人ばかりではなく、運転してもその頻度は低かった。運転に対する姿勢をネガティブにさせる理由として、運転経験の少なさが影響していた。高齢の男女、初心者男女ではこの傾向があまり見られない。一方、男性から見て女性の運転は遅く、女性から見ると男性の運転は速いと評価していた。男性ドライバーがまだまだ数的に多い中、男性の運転の流れに女性が合わないから嫌われると言えよう。

これらの男女の運転に対する姿勢のギャップが実際の道路でどのような運転挙動の違いとなって現れるのか、また、これらアンケートの回答理由が女性男性の性差の雰囲気によるものかどうか具体的に調べる必要が今後ある。

最後に北海道警察本部、交通安全協会、アンケートにご協力いただいた方々に心からお礼申し上げます。
参考文献）自動車安全運転センター、「女性運転者の運転の実態と意識に関する調査研究」、平成2年3月

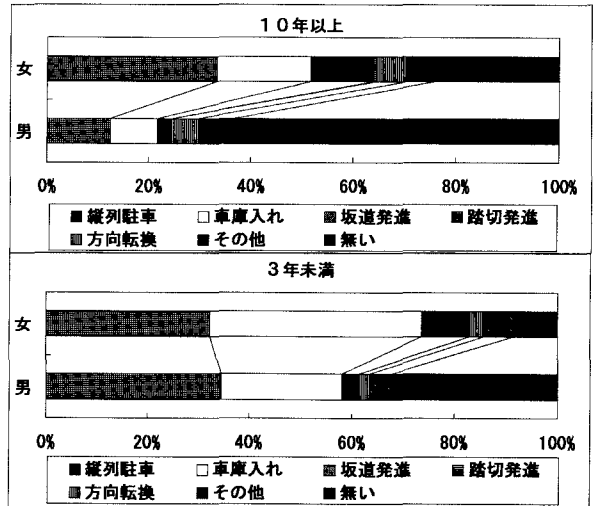


図2 運転歴別 苦手な運転技術

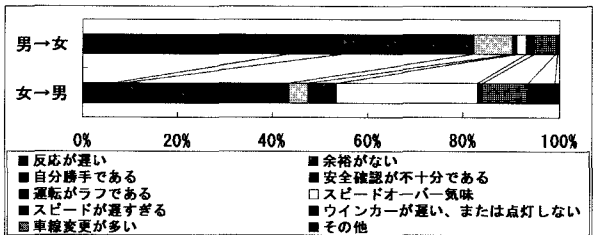


図3 異性の運転者の運転技能観

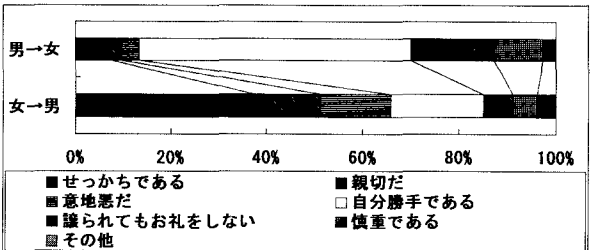


図4 異性の運転者の運転マナー観